私立大学研究ブランディング事業
令和元年度の進捗状況

学校法人番号	131018	学校法人名	國學院大學		
大学名	國學院大學				
事業名	「古事記学」の推進拠点形成―世界と次世代に語り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信―				
申請タイプ	タイプB	支援期間	5年	収容定員	8750人
参画組織	全学（文学部・経済学部・法学部・神道文化学部・人間開発学部・研究開発推進機構・教育開発推進機構）				
事業概要	近世国学を継承する本学創立以来の研究蓄積を基盤に、日本文化の根幹である『古事記』の先端的研究を推進する本「古事記学」は、21世紀の『古事記伝』編纂を目指す。即ち『古事記』を人類共通の遺産として位置づけ、日本文化の独自性と普遍性を示すとともに、伝統文化継承の担い手を育成することを目的とする。以て本学が世界と次世代に『古事記』を語り継ぐ独自の拠点となることで、日本文化の新たなる創造と発展に寄与する。				
①事業目的	本事業では、國學院大學（以下、本学）において創立以来130年以上にわたり継承されてきた学知に基づく学際的・国際的観点から『古事記』を再定位し、本学独自の「古事記学」の見地による、21世紀の『古事記伝』となる注釈書を編纂して、その研究成果を国内外に発信し、なおかつ教育へと還元するシステムを構築する。そして『古事記』に立脚し日本文化の新たなる創造と発展に寄与する世界的な研究拠点となることが目的である。				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	**中間評価に基づく『古事記』研究の深化と教育システムの構築** **〈研究〉国際的な比較研究の推進** **〈教育〉教育実践の本格的開始** **〈発信〉博物館連携による『古事記』関連展示の実施** ①ポスドク研究員等の雇用（最終年度まで） ②学内定例研究会の実施（最終年度まで） ③『古事記』関連資料の収集とデジタル化（最終年度まで） ④自己点検・評価および外部評価の実施（最終年度まで） ⑤『古事記』関連レファレンス環境の整備（最終年度まで） ⑥本学関連団体と連携した講演等の開催（最終年度まで） ⑦『古事記』関連の特集展示（最終年度まで） ⑧『古事記』絵画コンテストの開催（最終年度まで） ⑨国際シンポジウムの開催 ⑩外部機関と連携した学際的・国際的ワークショップの開催 ⑪外部機関・企業と連携した各種イベントの開催 ⑫『こども古事記』試用版に基づく授業実施（最終年度まで） ⑬『古事記』入門書の授業導入（最終年度まで） ⑭博物館連携による『古事記』展示 ⑮『古事記』の英訳作成と公開 ⑯データベースの更新 ⑰成果論集『古事記學』第6号、刊行				
③令和元年度の事業成果	**〈研究実施体制〉** 前年度と同様の研究実施体制により、令和元年度は客員研究員4名、PD研究員2名、臨時雇員4名を雇用した（実施計画①）。 **〈研究〉** 過年度から継続して『古事記』関連資料の収集と整理に努め（⑤）、公開に向けた調査とデジタル化を進めている（③）。令和元年度は新たに3点10冊の画像を公開した。また現在15点32冊の撮影を終えており、公開に向けて準備中である。学内定例研究会は6回実施した（②）。また令和元年度は国際ワークショップと国際シンポジウムを「いにしへの『心』を伝える」という統一テーマのもとに行った。国際ワークショップは「世界と次世代に伝える日本の伝統文化」、また国際シンポジウムは「神話・伝承の教材化と実践―『子ども古事記』がひらく世界―」という題目で、本学渋谷キャンパス常磐松ホールで開催した（⑨⑩⑫）。また海外で行った国際ワークショップとして、日本文化研究所／ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所共催「近現代日本の宗教文化と『古代』」（於アメリカ・ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所）、南開大学外国語学院連携国際共同シンポジウム（於中国・南開大学外国語学院）がある。本学関連団体と連携した講演等の開催として、日本文化研究所共催「21世紀における国学研究の新展開　国際的・学際的な研究発信の可能性を探る」を開催した（⑥）。				

	〈教育〉 教育への還元として、後期科目「國學院の学び（古事記を諸分野から読む）」（全学部・全学年対象）を開講した。同授業では本事業で作成した『古事記』入門書が使用されている（⑬）。また同じく教育への還元として津田学園中学校・高等学校（三重県桑名市）による古事記学センター訪問と、同校における道徳教育講演会の開催、並びに浦和麗明高等学校（埼玉県さいたま市）において、高大連携授業の一環として、本事業の教員が前・後期それぞれ4回、授業を行った（⑪）。また初等教育向けの『子ども古事記』を作成し、本年度中にHPにおいて公開する予定である（⑫）。さらに古事記への関心と理解を促すため第3回古事記アートコンテストを一般財団法人神道文化会共催のもと行い（⑧⑪）、高校生部門・大学生部門から作品を募った。受賞作品は、本学博物館にて展示するとともに（⑦⑭）、第２回アートコンテストの受賞作については全国で巡回展示（１３箇所）を行った。 〈発信〉 令和元年度の事業成果は、成果論集『古事記學』第6号として令和2年3月に刊行した（⑰）。同号には前号に引き続き古事記注釈の英訳も掲載した（⑮）。またデータベースも継続して更新し、随時公式ホームページ上で公開している（⑯）。 自己点検および外部評価を実施し（④）、令和元年度の事業成果をまとめた事業報告書を作成した。
④令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果	（自己点検・評価） 令和元年度は事業計画に基づいて事業を行った。ただし『こども古事記』および『古事記』関連アプリがまだ未公開のため、早急に公開を進めたい。
	（外部評価） 令和元年度に実施した外部評価委員会では、計画通りに事業が進んでいることを高く評価された。特に、以下の取り組みが評価された。 ①古事記アートコンテストの高校生部門創設。 ②データベースの大幅な更新。 また以下の点について要望が出された。 ①外部機関との連携 ・研究協定を結んでいる大学との連携事業を継続して推進して欲しい。 ・学会との連携も視野に入れて欲しい。 ②古事記アートコンテスト ・中学生部門を新設してはどうか。 ・個人の作品だけでなく、共同作成した作品も募集対象にしてはどうか。 ・幅広い層への認知を促すため、巡回展示の会場を増やすべきである。 ③データベース ・横断的な検索ができるようにして欲しい。 ・大学のホームページから古事記学センターのホームページへの遷移がしにくいため、改善を求める。 ・平成30 年度に公開予定であったアプリの公開がなされなかったため、公開を急ぐべきである。 ④こども古事記 ・平成30年度に公開予定であった『こども古事記』の公開がなされなかったため、公開を急ぐべきである。 ⑤成果報告論集について ・古事記註釈をまとめて単行書として出版してはどうか。 改善点および意見のうち、アプリは公開のためのデータはすでに整っており、現在公開へ向けて打ち合わせが進んでいる。その他の指摘に関しては、次年度の研究計画内での対応を進めていく。
⑤令和元年度の補助金の使用状況	令和元年度の補助金については、申請時の事業計画書に基づき、本学に設置した古事記学研究実施委員会にて方針を確認しつつ、古事記学センターによって作成した予算案に従い下記の通り執行した。 〈研究費〉 ［報酬・謝金］国際シンポジウム講師謝金 ［消耗品費］事務用品 ［用品費］三脚、LEDシューティングライト ［機器備品費］展示用資料 ［図書資料費］古事記関連図書 ［印刷製本費］成果論集印刷代、ポスター・チラシ印刷代、事業報告書印刷代 ［通信運搬費］成果論集発送費、ポスター・チラシ発送費 〈広報・普及費〉 ［労務委託費］古事記学センターHP作成委託費、シンポジウム映像作成費 ［研究旅費］国際シンポジウム・ワークショップ関連旅費 〈その他〉 ［人件費］客員研究員・PD研究員・臨時雇員（アルバイト）人件費